

題名	Male-biased protein expression in primordial germ cells, identified through a comparative study of UAS vectors in <i>Drosophila</i>
掲載雑誌	Scientific Reports 11, 21482 (2021)
著者	M. Masukawa, Y. Ishizaki, H. Miura, M. Hayashi, <u>R. Ota</u> , S. Kobayashi (本学教職員にはアンダーライン)
概要	<p>有性生殖を行う動物の多くは、メスで卵、オスで精子という2つの生殖細胞を作ります。これら生殖細胞は、胚発生初期につくられる始原生殖細胞と呼ばれる細胞に由来し、始原生殖細胞は発生過程を経て、卵や精子に分化します。しかし、始原生殖細胞の性分化のしくみは未だ十分に明らかになっていません。本論文では、性分化を開始したショウジョウバエ始原生殖細胞において、タンパク質の合成活性がメスに比べオスの始原生殖細胞で高いことを明らかにしました。このタンパク質の合成活性の差により、オスとメスの始原生殖細胞において遺伝子発現の性差が生み出され、異なる性分化が引き起こされることが示唆されます。本研究は、筑波大学との共同研究により実施され、生殖発生生物学教室では、主にトランスクリプトーム解析を担当しました。</p>